

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●チャンピオンズCはチュウワウイザードが優勝

12月6日(日)に行われたチャンピオンズカップ(G I)ではチュウワウイザード(牡5歳/栗東・大久保龍志厩舎)が優勝しました。同馬は2019年JBCクラシック(浦和・Jpn I)、2020年川崎記念(川崎・Jpn I)を勝利していますが、JRAのG Iはこれが初制覇となります。

●岩田望来騎手がJRA通算100勝を達成

12月5日(土)の3回中京1日・第1レースではバイオレットジンクが1着となり、同馬に騎乗した岩田望来騎手(栗東・藤原英昭厩舎)は、現役95人目となるJRA通算100勝(1240戦目)を達成しました。

●ディープインパクト産駒が史上最速で2300勝を達成

12月5日(土)の3回中京1日・第12レースとして行われた栄特別ではモーションピークが1着となり、ディープインパクト産駒のJRA通算勝利数が2300勝となりました。これはサンデーサイレンスに次ぐJRA史上2頭目のことで、産駒初出走の日から数えて10年5か月16日での2300勝達成は、サンデーサイレンスの11年3か月29日を上回る史上最速の記録となります。

●スイートトウショウ、シンボリクリスエスが死亡

12月5日(土)、北海道安平町のノーザンファームに繋養されていたスイートトウショウ(牝19歳)が腸捻転のため死亡しました。同馬は2004年に秋華賞(G I)、2005年には宝塚記念(G I)とエリザベス女王杯(G I)を制するなどJRA通算24戦8勝の成績を残し、2005年のJRA賞最優秀4歳以上牝馬を受賞。現役引退後は北海道新ひだか町のトウショウ牧場およびノーザンファームで繁殖牝馬として供用されていました。また12月8日(火)にはシンボリクリスエス(牡21歳)が蹄葉炎のため死亡しました。同馬は2002年・2003年に天皇賞(秋)(G I)および有馬記念(G I)を連覇するなどJRA通算15戦8勝の成績を残し、2002年にはJRA賞年度代表馬と最優秀3歳牡馬、2003年にはJRA賞年度代表馬と最優秀4歳以上牡馬を受賞。引退後は種牡馬としてエピファネイア(菊花賞・ジャパンカップ)などを出し、種牡馬からも引退後は千葉県成田市のシンボリ牧場に繋養されていました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●マスターフェンサーが名古屋グランプリ(名古屋)で重賞3連勝

名古屋グランプリ(Jpn II、12月10日、名古屋、2500m)は、4番手から4コーナーで先頭に立ったマスターフェンサー(川田将雅騎手、牡4歳、父ジャスタウェイ)が2馬身差で完勝、単勝1.4倍の支持に応えています。2番人気のロードゴラツが2着、逃げたダイシンインディーが3着に粘り、ミツバは5着、サクラアリュールは6着に敗れました。

●南部駒賞(盛岡)は北海道のギガキング【各地の主要2歳重賞】

南部駒賞(11月15日、盛岡、1600m)は、6番手から追い上げた3番人気の北海道からの遠征馬ギガキング(牡、父キングヘイロー)が残り150mで差し切り勝ち。金沢シンデレラC(11月10日、金沢、1500m、牝馬)は、3番手を進んだ3番人気の北海道から金沢への移籍馬マナバレンシア(父トウザワールド)が、逃げた単勝1.8倍で1番人気の北海道からの遠征馬ラブミーグッドをゴール寸前でクビ差捉え、重賞初制覇を果たしました。ハイセイコー記念(11月17日、大井、1600m)は、2番手から4コーナーで先頭に立った3番人気のゴールドジュニアの覇者アランパローズ(牡、父ヘニーヒューズ)がそのまま押し切り、デビュー以来の連勝を4に伸ばしています。

●デュアリストラが参戦、12月16日の全日本2歳優駿(川崎)

全日本2歳優駿(Jpn I、12月16日、川崎、1600m)は、JRA所属馬ではデュアリストラ、タイセイアゲイン、バクシン、ラストリージョ、ルーチェドーロという序列になりますが、距離経験のない馬も多く、リーチ(北海道)、ラッキードリーム(北海道)ら地方勢にも上位進出の可能性がありそうです。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1シガーマイルH〜トゥルーティンバーが5馬身半差で快勝

12月5日に米国ニューヨーク州のアケダクト競馬場で行われた、G1シガーマイルH(3歳上、ダート1600m)は3番手追走から最終コーナーで先頭に立ったトゥルーティンバー(牡6歳、父メインシヤフト、J.シスターソン厩舎)が5馬身半差で完勝。2018年に2着、2019年は3着だったレースで、G1初制覇を果たしました。36歳のK.カムシュー騎手は、北米通算3300勝以上の実績がありますが、G1はこれが初勝利となりました。

●G1スターレットS〜ヴァルダが差し切ってG1初制覇

米国カリフォルニア州のロスアラミトス競馬場で12月5日に行われたG1スターレットS(2歳牝、ダート1700m)はD.ヴァンダイク騎手が手綱を取ったヴァルダ(父ディストーテッドヒューモア、B.パファート厩舎)が5頭立ての最後方から差し切り勝ち。デビュー3戦目でG1タイトルを手に入れました。パファート調教師とヴァンダイク騎手のタッグはこれで2017年ドリームツリー、2018年チェイシングイエスタデイ、2019年バストに続くこのレース4連覇です。